

第24期 事業計画書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

法人の名称 特定非営利活動法人コロンプスアカデミー

【基本方針】 不登校・ひきこもりに表れるような個人の特性や様々な家庭の事情などによる生きづらさを抱える子ども・若者やその家族に対し、社会的自立を目指すための多様で多彩なプログラムの提供や経済的困窮を含む社会的な孤立による生きづらさを地域社会に理解を求める活動を通して、子ども・若者が各人の個性に応じた社会的自立、社会参加を可能にするための相談や社会資源につなぐことに寄与すること、また幼少期からの途切れのない支援を通して、不登校・ひきこもりや多様化する社会からの孤立の予防に寄与することを目的として活動に取り組んでいく。

1 事業活動方針 テーマ：おもしろい子（個）を育てる

私たち法人のテーマである「おもしろい子（個）を育てる」ためには、どんな状況であっても「おもしろいをあきらめない」気持ちを持って、すべての事業の活動を行っていききたい。コロナ禍を知恵と工夫を持って、「離れてつながる」ためのリモート会議やプログラムなどは、どの事業でも定着してきた。さらにITの活用を発展させていくと同時にリアルでのつながりも大事にしていきたい。今年度は、「つなぐ、つなげる、つながる」を継続して意識し、本人と家族をつなぐためにかかわるすべての支援者、関係者との連携を強めた「チーム支援」に力を入れる1年にしたい。学校、医療、地域の支援機関、団体、専門機関、行政などあらゆる対人支援をしている人たちとの連携を意識し、私たちがつなぎ役として、つながる場所として、様々な地域資源を知り、支援者をつながり、必要な人と場所につなげることを意識したい。「誰かにどこかにつながってさえいれば、なんとかなる」、「ひとりにさせない、抱え込まない」チーム支援を実現させたい。特に地域の学校との連携に力を入れる1年にしたい。

2 事業内容

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 子ども・若者とその保護者などに対する相談・支援

①不登校支援

- ・定期的に無料の集中相談会を開催し、寄せられた相談に丁寧な対応を心がけ、次につなげることを、特に学齢期のうちに必要な支援につながるように意識していく。
- ・特に中学校や高校との連携を深め、協力して見守り、サポートしていけるような体制づくりに努める。
- ・横浜市教育委員会や神奈川県教育委員会が主催する不登校関係の行事にも参加。

日時	随時
場所	横浜市磯子区東町9-9
主な従事者人員	2名
対象者	青少年および保護者、関係者

②よこはま南部ユースプラザ（なんぷら）

- ・相談窓口（電話、インターネット、来所）を開設し、困難を抱える若者やその家族の第一次的な総合相談を受ける相談室の運営を実施。
- ・ひきこもり状態からの回復期にある若者の居場所の運営。
- ・社会参加のための社会体験・就労体験のプログラムの実施。
- ・横浜市内南部エリア5区の関係機関、区役所との連携及びネットワークづくりのため、南部地域若者支援連絡会を開催。今年度は「チーム支援」をテーマに取り組む。
- ・横浜市青少年相談センターおよび、若者サポートステーションの支所的機能を有し、

他機関・団体や区との連携を深め、地域に密着した支援を行う。

- ・学校連携支援として、戸塚高校定時制へ訪問し、進路相談（キャリア相談）を行う。今年度から始まる学校運営協議会にも参加し、高校在籍中に相談できる機関があることを周知し、卒業後もいつでも継続して関わることができるようにする。また、他の学校（磯子工業高校定時制、日野中央高等特別支援学校）との連携も行う。
- ・南部エリアの5つの区役所（港南区・磯子区・栄区・金沢区・戸塚区）におけるひきこもり等の困難を抱える若者の専門相談窓口を各区毎月2日開設し、ユースプラザへの繋ぎ、または他機関紹介やその他の情報提供を行う。地域において青少年とその家族に関する相談に対応し、相談内容に応じ、問題解決に必要な支援を自ら行うほか、専門性が求められる相談については青少年相談センターや横浜市地域若者サポートステーション、行政窓口やその他機関と連携し、適切な支援、サービス提供に繋げていく。
- ・南部エリア5区において、ひきこもり等の困難を抱える若者の理解のための若者支援セミナーと個別相談の開催。
- ・若者支援やなんぷらの取組についてのセミナー、研修会などの依頼を随時受けつけ、横浜市の若者支援の取組についても周知広報を行う。
- ・なんぷら保護者交流会を月に1回開催。保護者同士のピアカウンセリング的なかかわりと研修を定期的に行っていく。

日時	月曜日～金曜日 11:00～19:00 土曜日 11:00～19:00（相談のみ）
場所	横浜市磯子区磯子3-4-23 浜田ビル2階
主な従事者人員	9名
対象者	横浜市内に住む15歳から39歳の若者および保護者、関係者
利用見込み人数	のべ5,000名

③金沢区寄り添い型学習支援事業（横浜いろは塾）

- ・金沢区内の生活困窮や保護者が精神疾患を有している等の理由により、養育環境に課題がある家庭に育つ中学生・高校生世代に対して、学習支援及び高校生世代支援を実施する事業を運営する。
- ・金沢区生活支援課と連携し、見学対応や生徒の受け入れの準備を行う。
- ・通ってくる生徒たちの支援内容を関係機関や関係者と共有し、定期的なカンファレンスの実施や個別の情報共有を行い、本人の進路や将来に活かせる支援に努める。
- ・富岡東地域ケアプラザにて実施した出張いろは塾を毎週開催する。
- ・子ども食堂にこまる＋と連携し、食事支援も定期的に行う。

日時	水・金曜日 16:00～20:00 土曜日 14:00～18:00
----	--------------------------------------

場所 横浜市金沢区谷津町359 2階

出張いろは塾

日時	火曜日 16:00～20:00
場所	富岡東地域ケアプラザ

主な従事者人員	3名
対象者	養育環境に課題があり、支援を必要とする中学生・高校生および保護者
開所予定日数	210日
登録見込み	65名
利用見込み	のべ1,540名

(2) 経済的困窮を含めた家庭環境などに課題があり、社会的に困難な状況に置かれた

こども・若者の支援

①子ども食堂「250にこまる+プラス」

- ・コロナ禍により、これからさらに広がる経済格差など、こどもたちを取り巻く環境の変化に対応し、家庭環境の課題など、社会的に困難な状況に置かれたこどもたちがあたたかい食事が食べられるだけでなく、地域とつながり、社会からの孤立の予防につながっていきけるようなプラスアルファのある場所をめざしていく。
- ・参加する子ども達自身が子ども食堂の運営に携わり、壁新聞などの活動を行う。
- ・近隣の小学校、中学校、高校に訪問し、必要としている児童生徒がつながるように具体的な連携の形を構築していく。
- ・出張！子ども食堂「250にこまる+プラス」として、根岸に来られないこどもたちのために地域に出向き、お弁当、食材の配布や共に食事をし、コミュニケーションを取る。
第1金曜日（18:00～）いろは塾 お弁当配布
第4金曜日（17:00～19:00）磯子 お弁当をスタッフと一緒に食べる
第3土曜日（11:00～14:00）岡村 ファームで採れた野菜を使ったランチの提供
- ・根岸の子ども食堂「250にこまる+プラス」と連携して、お弁当の配布、食材の提供などを行い、岡村のファームでは、畑で野菜の収穫や農作業などの体験も行う。

日時	毎週金曜日 17:00～19:00(相談・予約制 15:00～)
場所	横浜市磯子区東町9番9号 1階 (にこまる食堂)
主な従事者人員	2名
対象者	小学生・中学生・高校生世代

(3) こども・若者の自立に関する情報提供

①団体の活動の情報発信

- ・ホームページを相談する人、応援する人、それぞれが見やすいように情報発信し、随時更新し、最新の情報を掲載するよう努める。
- ・インスタグラムも活用し、より多くの人の目に留まるような情報発信を工夫していく。

日時	随時
場所	コロンブスアカデミー事務局
主な従事者人員	2名
対象者	不登校、ひきこもり状態にある青少年とその家族、 地域の関係機関・関係団体など

(4) 地域で子育てを支える場の提供・運営

①親と子のつどいの広場事業 子育てスポットくすくす

- ・横浜市補助事業として、乳幼児親子やプレママ・プレパパが気軽に集える居場所を運営。
- ・妊娠期や乳幼児を抱える親の日常的な悩みや不安を解消し、学べる場を作る。
- ・感染予防対策を行いながら、いつでも気軽に安心して来所できるようにする。
- ・発達が心配な子や保護者のサポートも丁寧に行い、必要な場合は関係機関に繋ぐようにする。
- ・参加する親子が参加者としてだけでなく、運営を支える当事者として育ち、ママサポーターとして「恩送り」をしていく形を作っていく。
- ・幼稚園座談会・保育園座談会を全3回開催。磯子区、中区の保育・教育コンシェルジュ、先輩ママに来ていただく。
- ・保護者のリフレッシュ、きょうだい児の行事参加、余裕を担保するために、また仕事（短時間）が安心してできるように一時預かりを実施。気軽に利用できるための工夫をしていく。
- ・ぽにょ+と同じフロアで活動している強みを活かして、協力し合い、小学生との関わりも

大事にする。

- ・ 広場全体会、Cブロック会議、磯子区子育て支援連絡会、ひろば連絡会、要対協（地区別関係機関会議）などを通して、地域の関係機関・関係団体との連携を深める。警察署、消防署、幼稚園、保育園などにも講座を依頼し、ママたちにも顔の見える関係を作ってもらおう。
- ・ 子育て支援連絡会主催の「子そだてフェスタ」に参加するなど、地域の子育て中の親子に広場をもっと知ってもらおう。SNSも活用していく。プレママ、プレパパにも知ってもらうために、参加しやすいイベントを開催する。出産前から気軽に立ち寄り相談できる場、パパも気軽に来れる場として知ってもらう。
- ・ 今後も離れていても（自宅からでも）つながれるように、オンラインやハガキも活用していく。
- ・ 横浜市の研修に積極的に参加したり、ミーティングを見直し、安全面や親子の対応について話し合う機会にして、スタッフの知識・スキルの向上に取り組む。

日時 月曜日～金曜日 10:00～11:30
場所 横浜市磯子区東町9-9
主な従事者人数 4名
開所予定日数 220名
登録見込み組数 80組
利用見込み組数 1,800組
一時預かり利用見込みのべ 180組 360時間

②プレ教室 ぽっかぽか

- ・ 就学前の2～3歳児のこども対象のプログラムを実施。保護者から離れて本人だけでプログラムに参加する経験や家庭ではできない体験をすることを目的にプレ教室を実施し、保護者もこども達もスムーズに幼稚園や保育園に移行できるようにする。GW後、5月からスタート。
- ・ 保護者同士がプレ教室プログラム終了後も助け合える関係作りを目指す。
- ・ 発達が心配な子や保護者のサポートも丁寧に行う。
- ・ 行事にも積極的に参加を促し、若者支援の取り組みを知り、子ども達の将来の不安も解決策も具体的に示していく場とする。
- ・ 不安なことや心配なこと、子どもの成長などを共有できる場にしたり、保護者同士の横のつながりを深めるために座談会を実施。
- ・ 面談を実施し、スタッフから子どもの様子を伝え、保護者の心配事を聞く機会にする。
- ・ 昨年度メンバーのOB会を開催し、近況報告や心配なことを話せる場を作る。
- ・ くすくすスタッフとの情報共有を密に行い、連携して親子のサポートを行う。

日時 月曜日～金曜日 10:00～11:30 全30回
主な従事者人数 3名
登録予定人数 12名
参加見込み人数のべ 360名

(5) 地域の子どもの居場所の提供・運営

①金沢区青少年地域活動拠点（カナカツ）

- ・ 横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場や様々な体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営する。
- ・ 1階フリースペース部分では駄菓子販売を行い、地域の中高校生世代が居心地良く過ごせる場を提供する。
- ・ 週に1回、2階を自習室として開放し、中高生が落ち着いて学習できる場を提供する。
- ・ フリースペースに来所する子ども達も一緒にイベントの準備をし、当日の運営も行っていく。
- ・ 社会参加プログラム（ボランティア体験・カナカツ美術展等）の実施。

- ・近隣の学校や他団体との連携を積極的に図り、金沢区民まつりいきいきフェスタ等の地域のイベントにも参加する。
- ・地域の会議、南部地域若者支援連絡会などにも出席し、関係機関との連携を深める。

日時 火曜日・木曜日 15:00～20:00 土曜日 13:00～18:00

場所 横浜市金沢区谷津町359（すずらん通り商店街内）

主な従事者人員 3名

対象者 地域の中高生世代、地域の方たち

利用見込み人数 3,000名

②磯子区青少年地域活動拠点（イソカツ）

- ・横浜市の補助事業として、地域の中・高校生世代の青少年が安心して気軽に集う場やさまざまな体験交流の場を提供する事を目的とし、地域に根付いた活動拠点を運営する。
- ・フリースペースでは地域の中高生世代が居心地良く過ごすことのできる場を提供する。
- ・運営委員会を開催し、一緒にイベント（イソカツ縁日、イソカツ美術展）の準備をし、当日の運営も行っていく。
- ・社会参加プログラム（ボランティア体験・農業体験等）の実施。
- ・近隣の学校や他団体との連携を積極的に図り、磯子まつり等の地域のイベントにも参加する。
- ・磯子区館長連絡会や南部地域若者支援連絡会などにも出席し、地域での関係機関との連携を深める。

日時 火曜日・木曜日 15:00～20:00 土曜日 13:00～18:00

場所 横浜市磯子区磯子3丁目4番地23号 浜田ビル2階

主な従事者人員 3名

対象者 地域の中高生世代、地域の方たち

利用見込み人数 3,600名

(6) 放課後児童健全育成のための学童保育の運営

①放課後ドラマ ぽによ+

- ・自主事業として、「放課後ドラマ おもしろい子（個）を育てる」をテーマに、安全確保が目的のこども預り所ではなく、それぞれの個性を大事に育てていく場にしていく。
特に生きづらさを抱えた子や課題を見過ごされていく子に対して、力を注いでいきたいと考えている。
- ・多様な人との関わり、多様な体験を通して、子ども達の心の免疫力を育む場を目指す。
- ・定期利用の他、一時保育や祝日・夜間・宿泊対応、年中児・年長児の預かり等、保護者も子どもも安心して子育てできる環境を作る。
- ・手作りの昼食・夕食・おやつを提供。毎日の食事を通して、準備や片付けの役割や仲間と食卓を囲む大切さを伝えていく。
- ・感染対策に配慮したぽによ独自のイベント（パン屋体験など）を継続しながら、今年は矢祭での虫キャンプなど宿泊イベントも再開させていく。
- ・保護者は、PPA（ぽによペアレンツアクションメンバー）として、ぽによ+や法人の運営を支える形を作っていく。
- ・会議ツールとしてのzoom、連絡ツールとしてのSlackなど、新しい生活様式に合わせたオンラインの活用を保護者と協力しながらより一層進めていく。
- ・特に4年生以上の登録児童を対象とした新しい料金プラン、一人帰り時間を設定、経済的な面からも高学年が残りやすく通いやすい形をつくり、卒業後に子ども食堂やイソカツなど法人内の拠点に自然につながっていけるような仕組みづくりを推進していく。
自主事業である強みを生かし、今後も保護者や子どもの実態に合わせた保育、支援を継続しさらにぽによの活動が継続、発展していけるよう応援者を増やしていきたい。

日時 終日（必要に応じて対応）
場所 横浜市磯子区東町 9-9 K2ビル2階
主な従事者人員 6名
対象者 横浜市内の年中児～小学生
登録見込み人数 84名
利用見込み人数 のべ10,350名